

書誌第105号追

# 九州沿岸水路誌

追補第10

令和7年（2025）12月26日発行



海上保安庁

# 九州沿岸水路誌

## 追 補 第 10

この追補は、令和 3 年 3 月刊行の九州沿岸水路誌の記載事項を更新するもので、令和 7 年 9 月 26 日までに入手した資料を基に編集したものです。

追補は、更新情報を記載した「本文」と、それを検索するため、ページ番号等を記載した「索引」から構成されています。

「索引」については、更新箇所の表題や港名等を記載し、ページ番号順に並べています。

「本文」については、本追補の更新箇所は、灰色背景で赤色文字にて示しています。

【】で囲んだ内容は、削除や差し替えを行うことを意味しています。

図の挿入等によりページ内に収まらない場合は、水路誌本誌とのページ番号を整合させるため、追補においては、便宜的に枝番号を付しています。

令和 7 年 12 月 26 日

海上保安庁海洋情報部

## 注 意

海上保安庁は、各国が発布した諸法規、宣言、海図及び水路通報・航行警報並びに船舶等からの視認報告のうち、船舶交通の安全の確保と海洋環境の保全という観点から、航海の安全及び環境保全に影響を与える可能性のある情報については、水路通報及び航行警報により周知するほか、海上保安庁の海図その他の航海用刊行物にも掲載するようにしています。

これらの情報を利用するにあたっては、海上保安庁によるこれらの情報提供は、航海の安全等のための利用を目的としており、その内容は日本政府がこれらの諸法規、宣言等を承認したことを意味するものではない点に留意してください。

ページ	更新箇所（表題、港名等）	備 考
	「追補履歴記入表」	
5	気象情報	追補第6の当該ページは無効
27	ウェブページによる情報提供	
56	唐津港	追補第6の当該ページは無効
91	佐世保港	追補第9の当該ページは無効
171	鹿児島港	追補第9の当該ページは無効
220	那覇港	追補第9の当該ページは無効
238	宮古島	
241	平良港	追補第9の当該ページは無効
245	石垣港	追補第9の当該ページは無効

## 追補履歴記入表

追補番号	発行年月日	訂正年月日	担当者
第1	令和3年8月6日		
第2	令和4年1月28日		
第3	令和4年7月15日		
第4	令和4年12月16日		
第5	令和5年7月14日		
第6	令和5年12月22日		
第7	令和6年7月12日		
第8	令和6年12月20日		
第9	令和7年7月25日		
第10	令和7年12月26日		
第11			
第12			
第13			
第14			
第15			
第16			
第17			
第18			
第19			
第20			

\* 本誌は、刊行の約7、8年後に改版予定

追補は、以下のウェブページをご覧ください。

URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/shoshi/tsuiho/supplement.html>

等)の安全を図るため、全国各地の主要な岬の灯台等航路標識132か所において、局地的な風向、風速、波高、気圧の気象・海象の観測を行い、その現況をテレホンサービス、ウェブページにより提供している。

船舶気象通報を行う航路標識の名称、気象観測項目等は書誌第411号「灯台表第1巻」に記載してある。

5 **気象官署** この水路誌の記載区域に関係のある気象官署は次のとおりである。

**天気相談所** 本書の記載区域に関係のある気象庁の天気相談所は、次表のとおりである。

【表の差し替え】

名 称	電 話 番 号	備 考	
福岡管区気象台天気相談所	092-401-0950	九州北部地方、九州南部地方及び奄美地方の気象情報	自動音声案内
沖縄気象台天気相談所	098-975-5771	沖縄地方の気象情報	

第3章 海 象

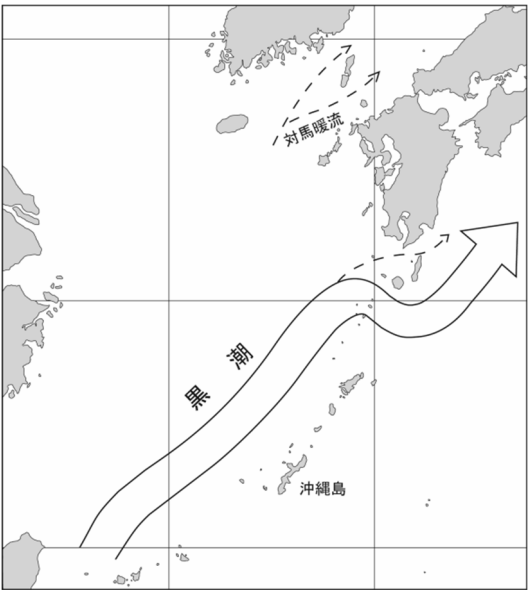
10

海 流

南西諸島の北西側を北上し、吐噶喇海峡を経て九州南岸及び東岸沿岸を通過する黒潮がある。

15

第2図 海流概況図



**黒潮** 台湾東岸と与那国島の間から東シナ海に流入して南西諸島の北西側、陸棚斜面を北上し、屋久島と奄美大島の間で東方に、種子島南方で北東方に向きを変えて四国沖に向かって流れている。流速はおおむ

5 **日本航行警報** 太平洋、インド洋及びその周辺海域を航行する日本船舶の交通安全のため、緊急に通報を必要とする情報を、ウェブページで提供している。また、(一社)共同通信社の船舶向けファクシミリ放送及び(社)全国漁業無線協会の漁業無線局からも提供している。特に、緊急性の高い情報(海底火山活動、機雷漂流、外国紛争行為、人工衛星等飛行物体の落下、その他船舶に緊急かつ重大な危険を及ぼすおそれのある事項)については、随時ウェブページに掲載する。

## ウェブページによる情報提供

水路通報、航行警報及び灯台表第1巻追加表は、ウェブページでも入手できる。さらに、沿岸海域における航行警報は、携帯電話でも入手できる。

10 水路通報 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/tuho/nm.html>  
 航行警報 URL <https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/keiho/navarea11.html>  
 灯台表第1巻追加表 URL [https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/shoshi/toudai/j\\_toudai.html](https://www1.kaiho.mlit.go.jp/TUHO/shoshi/toudai/j_toudai.html)

各管区海上保安本部及び部署等では、航海の安全情報及びイベント等の最新情報をウェブページでも提供している。

	海上保安本部等	U R L ア ド レ ス
第七管区	第七管区海上保安本部	<a href="https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/">https://www.kaiho.mlit.go.jp/07kanku/</a>
	第七管区海上保安本部海洋情報部	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/top.htm">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/top.htm</a>
	備考：第七管区海上保安本部管下の海上保安部（福岡、三池、唐津、長崎、佐世保、対馬、以上本誌に関わる部署）のウェブページは、第七管区海上保安本部のウェブページにリンクされている。	
第十管区	第十管区海上保安本部	<a href="https://www.kaiho.mlit.go.jp/10kanku/">https://www.kaiho.mlit.go.jp/10kanku/</a>
	第十管区海上保安本部海洋情報部	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN10/">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN10/</a>
	備考：第十管区海上保安本部管下の海上保安部（鹿児島、熊本、宮崎、串木野、奄美）のウェブページは、第十管区海上保安本部のウェブページにリンクされている。	
第十一管区	第十一管区海上保安本部	<a href="https://www.kaiho.mlit.go.jp/11kanku/">https://www.kaiho.mlit.go.jp/11kanku/</a>
	第十一管区海上保安本部海洋情報監理課	<a href="https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN11/">https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN11/</a>
	備考：第十一管区海上保安本部管下の海上保安部（那覇、石垣、中城）のウェブページは、第十一管区海上保安本部のウェブページにリンクされている。	

## 海の安全情報

海上保安庁では、プレジャーボート、漁船等の船舶運航者や磯釣り、マリンスポーツ愛好者の方々に対して、全国各地の灯台等で観測した気象・海象の状況、海難の発生などの緊急に周知する必要がある情報をリアルタイムに提供する「海の安全情報」を全国の海上保安本部等で運用している。

「海の安全情報」では、海上における安全のより一層の向上を目指して、船舶交通の安全のために必要な情報を使いやすく、分かりやすい形に分類、整理し、インターネット及び電子メールを通じて提供している。

URL <https://www6.kaiho.mlit.go.jp/>

**気象** 夏季は一般に南東の風が多く、冬季には北西又は南西の風が多い。港内は年間を通じて比較的静穏であるが、港口が北東に開いているため、北寄りの風が強吹すると大波が港内に侵入し荷役不能（冬季に多く、年間4～5日という。）又は錨泊困難となる。

**海象** 冬季、北東～北西の季節風が吹くとき、大島～神集《カシワ》島周辺海域で、三角波が発生する。

- 5 **航泊制限** 引火性危険物積載タンカーの引火による事故を防止するため、一般船舶は港内に停泊中の同タンカー（タンク船含む）から30m（LPG船は50m）以内の海域に立ち入ることが禁止される。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間においても容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

- 10 **錨地** 西港内は水深7～15m、底質細砂及び炭粉混じりの硬い泥で錨かきが良く、相賀《オウカ》埼によって多少北寄りの風を防ぐことができる。東港は水深7～9m、底質細砂で錨かきが良く、北西風時には西港よりも錨泊に適するが、台風時の避難錨地とはなり得ない。

検疫錨地は、大島北端の北西方0.7M付近に指定されている。

一般船舶の錨地は

西港錨地（概位 33° 28.8' N 129° 56.8' E）：唐津港西港東防波堤西灯台（33° 29.3' N 129° 57.4' E）から223° 1,300mの点を中心として半径100mの海面

## 15 港湾施設

名 称		概 位	長さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
東港岸壁		33° 28.2' N 129° 57.9' E	230	9	10,000×1	長さには取付部を含む。
東港フェリー岸壁		33° 28.2' N 129° 57.8' E	115	4.5	1,000×1	
LPG大型船専用棧橋		33° 28.9' N 129° 57.4' E	231.5	12.5	57,000×1	
LPG小型船専用棧橋		33° 28.7' N 129° 57.5' E	70	6	1,200×1	
大島1号ドルフィン岸壁		33° 28.6' N 129° 57.5' E	110	5	5,000×1	
大島岸壁		33° 28.5' N 129° 57.6' E	360	2.5～5.5	1,000×1	
水産 ふ頭	5号岸壁	33° 28.4' N 129° 57.3' E	260	7.5	750×3	
	4号岸壁	33° 28.3' N 129° 57.3' E	110	5	750×1	
	3号岸壁	33° 28.2' N 129° 57.4' E	240	4	750×2	
	2号岸壁		90	3	450×1	
妙見 ふ頭	妙見2号岸壁	33° 28.4' N 129° 57.1' E	180	2	2,000×2	
	妙見3号岸壁	33° 28.5' N 129° 57.1' E	260	6.5～7	5,000×2	
	妙見4号岸壁	33° 28.7' N 129° 57.0' E	240	11	30,000×1	
	妙見5号岸壁	33° 28.6' N 129° 56.9' E	130	7	5,000×1	
	妙見6号岸壁		90	5	2,000×1	

（注意）東港岸壁については、耐震岸壁として2016年4月から暫定運用されているが、前面泊地の水深が約7mであるため、当該泊地の浚渫を継続している。

**最大入港船舶** 2019年9月19日、客船 飛鳥Ⅱ（50,142t、喫水7.8m）が妙見ふ頭に着岸した。

- 20 **台風・津波等対策** 本港では、台風・津波来襲等異常気象時における事故を未然に防止するため、唐津港台風等対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。（問合せ先：唐津海上保安部）

**台風・津波等対策** 本港では、台風・津波襲来時等、異常気象時における事故を未然に防止するため、佐世保港台風等対策委員会が設置され、在港船舶等に対し、異常気象時における各船舶がとるべき措置を定めている。また、異常気象時においては、港長から、異常気象時における各船舶がとるべき措置について、港則法に基づく勧告等がなされることがあることから、留意すること（問合せ先：佐世保海上保安部）

- 5 **航泊禁止** 平成30年1月31日から当分の間、高後埼灯台から東方3,700m（概位  $33^{\circ} 06' 07''$  N  $129^{\circ} 42' 22''$  E）の沈船（約12,000 t、黄塗球体浮標にて表示）を中心とする半径250mの円内海域は、喫水が10m以上の船舶の航行及び全ての船舶の錨泊が禁止されている。（平成30年1月31日 港長公示第2号）

### 港湾施設

名 称		概 位	長 さ (m)	水 深 (約m)	係 船 能 力 (D/W×隻)	備 考
鯨瀬フェリー栈橋		$33^{\circ} 09.7' N$ $129^{\circ} 43.4' E$	115	5.5	2,000×1	フェリー使用
新 み な と	－7.5m岸壁	$33^{\circ} 09.8' N$ $129^{\circ} 43.5' E$	220	7.5	15,000×1	
	－4.5m岸壁		100	4.5	2,000×1	
三浦－10m岸壁		$33^{\circ} 09.6' N$ $129^{\circ} 43.5' E$	270	10	12,000×1	
干 尽	－4.5m岸壁	$33^{\circ} 09.3' N$ $129^{\circ} 43.4' E$	60	4.5	500×1	
	－7.5m岸壁		130	7.5	5,000×1	
	－5.5m岸壁		180	5.5	2,000×1	
前 畑	－4.5m岸壁	$33^{\circ} 09.0' N$ $129^{\circ} 43.3' E$	120	4.5	7,000×1	
	－10m岸壁		185	7.5～10	15,000×1	
	－11m岸壁		195	9.5～10	20,000×1	水平引込クレーン 式アンローダー
	－13m岸壁		260	11.5～13	40,000×1	
	－7.5m岸壁	$33^{\circ} 08.8' N$ $129^{\circ} 43.4' E$	130	7.5	5,000×1	
浦頭岸壁1、2号		$33^{\circ} 06.1' N$ $129^{\circ} 44.9' E$	260	6～7	5,000×2	

上記のほか、港内各所に米軍及び自衛隊の専用係船施設がある。

- 10 **最大入港船舶** 2025年9月5日、客船 MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水8.7m）が三浦－10m岸壁に着岸した。

**航泊制限** 引火による船舶の事故を防止するため、一般船舶は、港内に停泊中の同タンカー（タンク船を含む）30m以内の水面に立ち入ることが禁止されている。なお、同タンカーは、港内停泊中、夜間でも容易に視認しうる「引火性危険物積載中」の垂れ幕等を掲げている。

- 15 **錨地** 第3区東部の恵美須湾は、水深10m前後、底質泥及び貝殻で好錨地になる。

検疫錨地（ $33^{\circ} 05.8' N$   $129^{\circ} 42.0' E$ ）は、航路の南側に指定されている。

危険物積載船の錨地は、第3区の百間《ヒヤッケン》鼻（ $33^{\circ} 07.6' N$   $129^{\circ} 44.1' E$ ）と土井ノ鼻（ $33^{\circ} 05.5' N$   $129^{\circ} 42.0' E$ ）を結ぶ線以東に指定されている。

なお、佐世保港内で錨地を希望する全ての船舶は、佐世保海上保安部に連絡すること。



	9号岸壁	31° 29.0' N 130° 31.0' E	90	4～5.5	2,000×1	
	10号岸壁		250	—	10,000×1	
	11号岸壁		250	6～8	10,000×1	

\* D/T は、排水トン数を示す。

外国貿易船が使用する港湾施設などの保安を強化するための立ち入り制限区域がある。

**最大入港船舶** 2025年9月23日、客船MSCベリッシマ（171,598t、喫水8.7m）が、マリンポート岸壁に着岸した。

## 5 医療施設

名 称	電 話 番 号	名 称	電 話 番 号
鹿児島市立病院	099-230-7000	鹿児島大学病院	099-275-5111

## 海事関係官公署

官 公 署 名	連 絡 先	官 公 署 名	連 絡 先
第十管区海上保安本部	099-250-9800	福岡検疫所鹿児島検疫所支所	099-222-1473
鹿児島海上保安部（港長）	099-222-6680	門司植物防疫所鹿児島支所	099-222-1046
九州運輸局鹿児島運輸支局	099-222-5660	動物検疫所門司支所 鹿児島空港出張所	0995-43-9061
長崎税関鹿児島税関支署	099-260-3125	鹿児島県鹿児島地域振興局建設部	099-805-7414
福岡出入国在留管理局鹿児島出張所	099-222-5658		

**台風・津波対策** 本港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため鹿児島港台風・津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：鹿児島海上保安部）。

10 **引船** 引船がある。

**修理** 修理のできる造船所がある。

**補給** 清水の補給は主な係船岸壁で可能であり、また、給水船がある。燃料油は、給油船から補給できる。

**海上交通** 沖縄、奄美、吐噶喇の各群島、種子島、屋久島、桜島及び鹿児島湾内の沿岸各地に至るカーフェリー便、那覇、名瀬、垂水及び指宿に至る定期旅客船便がある。

15

## 加治木《カジキ》港（31° 44' N 130° 40' E）（海図W1255）（JP KJK）

**港種** 港則法適用港

20 **概要** 鹿児島湾北岸にある南方に開口している港である。主な取扱貨物は建設資材である砂、砂利及びセメントである。

の陸岸の前面 30m以内の海域は、米軍への提供水域となっており、一般船舶の立入りが制限されている。

**錨地** 通航路及び危険物積載船舶などの錨地を確保するため、標準錨地（標準錨地については港長に問い合わせること）が設けられており、この錨地は比較的安全に錨泊できるが、周囲はさんご礁で囲まれており、海底は陰悪であるので、この海域の状況に詳しくない船舶は水先人なしでは投錨しないほうがよい。

5 **檢疫錨地**は、新港第1防波堤の西方にある。

**通信** 船舶と港長との間で無線電話による港務通信ができる。

呼出名称	呼出応答/通信チャンネル	運用時間	連絡先
おきなわほあん Okinawa Coast Guard Radio	16/12ch	常時	那覇海上保安部

**水先** 那覇港には強制水先区があり、那覇水先区水先人会へ要請する（第1編総記第6章水先参照）。那覇水先区の水先要請引き受け基準として、視程が700m以下の視界制限状態のとき、風速については那覇ふ頭地区への水先は10m/s以上の強風のとき、また、新港ふ頭地区への水先は13m/s以上の強風のとき、水先業務を引き受けない。また、この他に種々な基準があるので問合わせが必要である。

**架橋** 泊ふ頭の西側付近に泊大橋（高さ25m、橋梁灯付）がある。

**最大入港船舶** 2025年9月1日、客船MSCベリッシマ（171,598t、喫水8.7m）が、新港ふ頭12号岸壁〔第2クルーズバース〕に着岸した。

15 **台風・津波対策** 本港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため那覇港台風及び津波対策委員会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒体制、避難、入港制限の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：那覇海上保安部）。

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
第十一管区海上保安本部	098-867-0118	沖縄地区税関（本関）	098-996-5506
那覇海上保安部（港長）	098-951-0118	動物検疫所沖縄支所	098-861-4370
那覇検疫所（本所）	098-868-1674	福岡出入国在留管理局那覇支局	098-832-4186
那覇植物防疫事務所	098-868-0715	門司地方海難審判所那覇支所	098-868-9334
沖縄総合事務局運輸部	098-866-1836		

**引船** 引船がある。

**修理** 修理できる造船所がある。

20 **補給** 主な岸壁で清水、燃料油の補給ができる。

#### 医療施設

名称	電話番号	備考
沖縄赤十字病院	098-853-3134	

**海上交通** 本州、九州及び周辺離島との間にフェリー便等がある。また、釜山〔韓国〕、上海〔中国〕、との間にコンテナ船等が就航している。

## 第6節 先島群島（海図W1203、W1204、W1207）

**概要** 先島群島とは、南西諸島中、最も南西方にある宮古列島、八重山列島及び尖閣諸島をいう。

**気象** 先島群島南方海上の低気圧が、群島に近づくにつれて急速に発達して暴風を伴うことがある。暴風の前後約1週間は波が高いので注意が必要である。冬季は風が強く荒天の日が続き、夏季は特に5～7月の間は風が弱まり、海上は静穏となることが多い。

**航行上の注意** この群島付近では、しばしば竜巻が発生する。これらの大部分は寒冷前線に伴い発生し、夏に多いが、他の季節にも昼夜を問わず発生している。

### 宮古列島（海図W1205）

**概要** 先島群島の東部にある島々で、宮古島、池間島、大神島、来間《クリマ》島、伊良部島、下地島、多良間島、水納島の八つの島からなり、島全体がおおむね平坦をなし、河川は存在しない。

主な港湾としては、宮古島の平良港、伊良部島に長山港がある。

**八重干瀬《ヤビジ》** (25° 01' N 125° 15' E) は、宮古島の北端北方に広がる南北約7M、東西約4Mに及ぶ広大なさんご礁群である。各礁はいずれも約0.3m干出するが、その間は深水である。八重干瀬には干出さんご礁のほか、北端の干出さんご礁東西に2分立礁がある。干出さんご礁の北端（ここから北北西方約1.7Mにわたり水深14.6～16mの浅所がある）、北西端付近及び南端付近に灯標がある。

付近海域には多数の暗礁が点在しているので、十分な警戒を要する。

**気象** 高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属し、四方を海に囲まれているため冬季も比較的暖かく、年平均気温は23℃である。

1～2月がもっとも寒く、最低気温の平年値は約16℃である。5月上旬頃から6月下旬までは梅雨で、この期間に年降水量のおよそ20%が降る。梅雨が明けると、9月頃まで最高気温30℃以上の暑さが続く。夏秋季は台風シーズンで、特に、9月頃強い台風が来襲する傾向がある。

### 宮古島 (24° 48' N 125° 20' E) （海図W1205）

**概要** 宮古列島の主島で、沖縄島南端の南西方約145 Mにある。周辺の島々とさんご礁で連続している。島は、高さ120m以下の山丘が起伏している。

**目標** 島のほぼ中央に野原岳（高さ109m、付近にレーダドーム、北西方に顕著な2タンクがある）があり、北部に西平安名岬 (24° 55' N 125° 15' E、北西端の西側の突端) がある。

**気象** 年平均気温が23℃を超え、四季をとおして緑につつまれた暖かな気候であり、年平均湿度は79%で高温多湿な亜熱帯海洋性気候に属している。降水量は年間およそ2,000 mmを超え、風向は冬では北～北東、夏には、南～南西より吹き、台風は主に6～10月頃に数回到来する。島が平坦であるため台風による強風の影響を受けやすい。過去に観測された最大瞬間風速は、北東の風85.3m/s（1966年9月5日、第2宮古島台風）である。

**最大入港船舶** 2025年6月16日、客船 MSC ベリッシマ（171,598 t、喫水 8.7m）が、平良港クルーズ岸壁に着岸した。

**錨地** 検疫錨地（24° 51.8′ N 125° 15.6′ E）が港外北部、下埼の北北西方 2M付近にある。通常、大型船に薦められる錨地としては、大神島頂（24° 55.0′ N 125° 18.5′ E、高さ 74m）を 055° 約 4.4M に見る所（水深 53m、底質細砂及び貝殻）が良い。また、池間島灯台を 011°、西平安名《イリヘンナ》岬先端を 051°、同島の東側外端を 183°、伊良部島北端を 248° にそれぞれ見る所にも錨地が得られる。

北東の季節風が強吹するときの錨地としては、池間島の南側で、西平安名岬の頂を 105° 約 0.8Mに見る所が唯一のものであるが、付近に土砂投入地があるので注意を要する。

**注意** 錨のつめが礁の間に挟まる場合があるので、錨地の選定及び抜錨には慎重な配慮が必要である。

**台風・津波対策** 本港では、台風、津波等による船舶事故を未然に防止するため宮古地区海上防災対策協議会を設置し、在港船舶などに対し、台風・津波情報の伝達及び警戒体制、避難の勧告・解除等の台風・津波災害防止措置を指導している（問合せ先：宮古島海上保安部）。

#### 海事関係官公署

官公署名	連絡先	官公署名	連絡先
宮古島海上保安部	0980-72-0118	福岡出入国在留管理局 那覇支局 宮古島出張所	0980-72-3440
沖縄地区税関 宮古島税関支署	0980-72-2310	那覇検疫所 平良出張所	0980-73-5115
那覇植物防疫事務所 平良出張所	0980-72-2433	宮古島市 建設部 港湾課	0980-72-4876

**補給** 清水の補給ができる。

**修理** 小規模の修理ができる。

#### 医療施設

名称	電話番号	備考
沖縄県立宮古病院	0980-72-3151	

**海上交通** 多良間島との間にフェリー便（499 t）がある。

### 伊良部島（24° 50′ N 125° 11′ E）（海図W1281）

**概要** 宮古島平良港の西方約 3Mにあり、宮古島北西岸西部に位置する。島頂は島の南東端にある高さ 89 m のがけである。島はさんご礁で囲まれ、南西側に下地島がある。

島頂の北西方至近にある無線塔（24° 49.2′ N 125° 12.8′ E、赤白塗、2 基）は遠方からよく目立つ。

**架橋** 伊良部島南東端から、宮古島西岸野川埼間に伊良部大橋（高さ約 27m、全長 3,540m）がある。

**港種** 港則法適用港、開港、検疫港、出入国港、家畜検疫の港、植物防疫の港、重要港湾

**概要** この港は、西方へ開口し、南西部にふ頭用地〔新港地区〕が埋め立てられサザンゲートブリッジ（高さ12m）で繋がっている。南側は、島の南端から半月形に竹富島まで延びるさんご礁に囲まれているため、わずかに南東の風浪を防ぐことができる。港内は北西部を除き、各方向から幅広く浅水地が張り出し、かつ中央部付近にも浅水の孤立さんご礁が散在しているため、錨泊に適する区域は非常に狭い。港界南東端のさんご礁の切れ目に、釜口《ハガマグチ》〔サクラ口〕という狭い水道は掘り下げられ、地元漁船が利用しているが、橋梁の関係でマスト等の高い船舶の通航には支障がある。

港域内には石垣漁港及び登野城《トノシロ》漁港がある。

## 目標

地 物 名	概 位	備 考
屋良部《ヤラブ》埼	24° 26' N 124° 04' E	
御神《オガン》埼	24° 27' N 124° 05' E	埼上に灯台がある。石垣港に近づくときの好目標
屋良部岳	24° 26' N 124° 05' E	高さ216m
竹 富 島	24° 19' N 124° 05' E	高さ33mの平らな島
小 浜 島	24° 20' N 123° 59' E	高さ99m
無 線 塔	24° 21.8' N 124° 09.5' E	高さ160m、赤白塗
著 屋	24° 20.3' N 124° 08.9' E	ターミナルビル、白塗
橋 梁	24° 19.9' N 124° 09.6' E	サザンゲートブリッジ、高さ12m、青塗、顕著

**水路** 観音埼の南南西方1M付近から、港口に至る水路は5灯浮標で表示されている。沖南防波堤と防波堤（沖西）及び防波堤（西）、その南方約0.2Mにある岸壁との間を経て港内に至る間は、水深約9m、幅約150mの狭い掘下げ水路である。この水路の両側は白色さんご礁で、天候不良時及び夜間を除いて船橋から容易に視認できる。

**針路法** 第2編航路記第2章南西諸島、那覇港～宮古島・石垣島の針路法3により大埼正横2.7Mで針路137°に変針した船舶は、石垣港中央灯浮標（24° 20.9' N 124° 06.3' E）を左船首に見るように進む。

以降、巡視船（1,000 t、喫水3.8m）は石垣港中央灯浮標を左正横に見て、針路117°に変針し、石垣港沖南防波堤北灯台（24° 20.0' N 124° 07.9' E）と沖西防波堤の中央向け航行し、13階建てホテル（24° 20.2' N 124° 09.5' E 白塗）を船首目標（針路081°）として適宜岸壁に向かう。（2003年）

## 入港上の注意

- 1 西表島等への高速連絡船が頻繁に出入し、出港船であっても水路内の南寄りに航行する船舶があるので注意すること。
- 2 夜間、街灯と灯浮標の灯火を誤認するおそれがある。
- 3 B岸壁の前面は、干潮時喫水4.0m以上の船舶は、余裕水深が無くなり操船困難になる場合があり、南の風が10m/s以上になると、岸壁に圧流され自力での離岸が困難になるので注意を要する。

**制限** この港では、条例により原則として夜間の係留施設への着岸は禁止されている。入港しようとする船舶は、石垣市役所港湾課（石垣市浜崎町3-4、電話 0980-82-4046）の指示に従わなければならない。

**行政指導** 石垣海上保安部では、入港する外国船舶に対し次のとおり指導を実施している。